

# 京都府青少年育成協会会長奨励賞 「制服の在り方」

京田辺市立田辺中学校 2年

松山 優里



私は入学してすぐ、学校でのルール：例えば授業の受け方、掃除の仕方、部活動の約束など様々なことを知った。中学校の大きな決まりと言えは制服の着方だ。

私の学校では、男子は学ランのボタンを上まで止めること、シャツを出してはいけないこと、女子はスカートを短くしすぎないことなど様々な決まりがある。制服は学校生活を送る上でとても身近でかつ重要な存在だといえるだろう。しかし、私はそんな制服の在り方を考え直すべきだと思う。

制服はどうあるべきなのか。考え始めた時、私は単純に私服にすればよいと思っていった。個性の表現がしやすくなると考えていたからだ。約9割が私服を採用しているアメリカの学校では、一人ひとりが違うのが当たり前。だから個性は大切にしよう。こういった考え方が浸透している。制服では目に見えることのできにくい個性も、私服にすることにより目視できる。それにより個性

が尊重されやすい環境が生まれるのではないかと。

また、世界や日本にはLGBTのT、トランスジェンダーという心と体の性別が一致しない人々が少なからずいる。男女はつきりと分かれた制服では、そのような人達が混乱してしまうからだ。昨年私は学校で行われた講演会でトランスジェンダーの方の話を聞いた。やはり制服では自分の心に違和感が生じてしまったという。その人は進学先の配慮やその人自身のキャラでスカートの下にジャージをはいていても何も言われず過ごせたようだ。私服であればその心の違和感を軽減できる。また、中高生の間には私服で表される個性、性別がよく普通に受け入れられればどうか。日本の社会は多くの性別・個性を認められる社会になるはずだ。そして周囲の理解が得られれば、トランスジェンダーの方が持つ不安を打ち明けやすくなるなど、心の負担も軽減できる。

私服にするメリットとして、SNSによるトラブルを減少できる点も挙げられる。今、私達未成年でも気軽に投稿できるようなネット環境が広がっている。そんな環境がゆえに、写真に写った制服から学校などの個人情報特定されるなどのトラブルが起こってしまう。私服はそういったトラブルをなくせる。これらの点が私服にするメリットだといえるだろう。

では、私たちが今着ている制服はどんな効果をもたらしているだろう。今一度考えてみた。

まず考えられることは、風紀を正しくする、校則を守ることの大切さを学べるということだろう。先ほど一目でこの生徒かが分かる制服によるデメリットとしてSNSトラブルの発生を挙げた。が、一目でこの学校の生徒かがわかることで、犯罪や非行を抑制するという役割もある。これらのことから私服とは違うメリットが制服には多くある。

そこで、私は制服に多様性を持たせればよいと考えた。私服のように自分の個性に合う制服が選べれば、多様ではあるが制服なので制服の良さを生かせる。また男女両用のものも使用できる。二〇一八年には約七〇〇校だったが二〇二〇年には約千校と増え、実際にジェンダーレスの制服を選択できるようになっている。制服を多様にすることのメリットを活用し、それが広がりを見せているのだ。

確かに、制服より私服の方が動きやすく、着替えも楽であり、自分に合う体温調整もしやすい。制服では自由が制限されていると思う人もいるだろう。

しかし、私服では、個性が目視できると同時に、経済格差も目視でき目立つてしまうのだ。そもそも制服は一八七〇年代に軍服を洋装化したものを制服としてされたものようだ。それを「貧富の格差」を感じさせないようにと一八七九年に学習院が採用したことが日本中に広まっていったとされている。

学校の生徒の一員ということを自覚させるため、という役割もある。だが、経済格差を目立たせないようにできるという大きな役割を制服が担っているというのを忘れてはならない。また、私服では周りからの目を気にしながら服の選択をしなくてはならない、と思う人が多くいるはずだ。ほぼ毎日の着ていく服に悩む時間が増えてしまうだろう。これらの点から、制服にもっと多様性を持たせるべきだと主張する。

人の多様性が重要視されたり、認められたりされるようになってきている現代。私にとっても身近な場所、学校も制服を含める校則に変化が必要だ。自分とは違う立場の人の目線に立ち、物事を考える。このことが多くの多様性を認めあえる社会への第一歩だと考える。